



加藤良一 2025年2月19日

下總皖一顕彰碑 北浦和公園

JR京浜東北線・北浦和駅西口ロータリーを出てすぐ、中山道との交差点の向かい側に北浦和公園がある。公園の中央には「埼玉県立近代美術館」が配され、文化の薫り高い公園としての佇まいが感じられる。入口を入ると、「音楽噴水」と呼ばれる大きな噴水池があり、音楽に合わせてさまざまな水が舞い上がり、夕方以降はライトアップもされている。池の中には秩父地方産の自然石が敷き詰められ、落ち着いた雰囲気醸し出している。園内には子どもの遊具やさまざまなオブジェがあり市民の憩いの場として親しまれている。

この地には大正時代より旧制浦和高等学校が立地しており、1950年以降には埼玉大学文理学部のキャンパスがあった。大学が移転後、その跡地が公園として整備され、1974年に開設されたものである。

噴水の右手、公園の北側、通路からやや奥まったところに下總皖一を顕彰する碑がひっそりと佇んでいる。





下總皖一(覚三)は、明治三十一年三月三十一日埼玉県原道村(現大利根町※)に生まれる。

埼玉師範学校、東京音楽学校卒業後、各地の師範学校で教鞭をとる。昭和七年ドイツに留学、パウ・ヒンデミット教授に師事、作曲を学ぶ。帰国後、母校音楽学校に引続き、東京藝術大学音楽学部教授として、作曲、音楽理論、音楽教育などに、大きな足跡をのこし昭和三十一年同大学音楽学部長となる。

永眠されたのは昭和三十七年七月八日であった。

「たなばた」「ほたる」「花火」など広く親しまれている

歌の数々、多くの合唱曲、「管弦楽のための変奏曲」「主題と変奏(弦楽三重奏)」「クラリネットのための三つの小品」「箏独奏のためのソナタ」などの作品と「和声学」「対位法」「日本音楽理論」などの著書がある。

日本の作曲界黎明期における先達として、あまたの作曲家、教育者を育てる。ここに十七回忌にあたり、友人並びに薫陶を受けた人々が相集い、ゆかりの地に、永く業績を称える碑を建てる。

昭和五十三年七月二日 下總皖一顕彰碑建立会

(※ 大利根町：現在は埼玉県加須市)

この公園に接する国道463号線の向かい側に男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニーの練習場としてよく使っている常盤公民館がある。時間に余裕があるときは、公園内をぶらついてから練習に臨んでいる。

下總皖一先生之像

北浦和公園からずっと北に位置する、下總皖一の生誕の地、埼玉県加須市の道の駅「童謡のふる里おおとね」に「下總皖一先生之像」がある。この道の駅は利根川の川べりにあり、周囲には長閑な田園風景が広がっている。よく知られた「たなばた」、「野菊」、「はなび」などの童謡は、この旧大利根町をイメージして作曲したと言われている。

また、同じ加須市内には、アスタホールという名の多目的ホールがある。これは下總皖一生誕100年を記念して作られたもの。「アスタ」とは「野紺菊、野菊」のことで、英語のAsterと、「また明日も



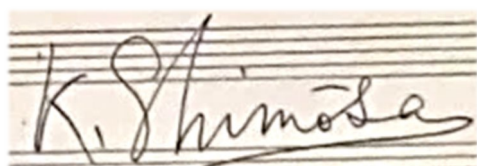
ここで会いましょう」という意味のスペイン語の「アスタ・マニアーナ」から命名されている。

コミュニティ活動や生涯学習などで「明日もまた、みんなこの施設に集まって励みましょう」という意味が込められている。ホールではコンサートなども開催できる。



古民家風のアスタホール

ところで、「下總」を「下総」と書かれることがよくあるが、これは「下總」が正しいとされている。



読み方については、ご本人のサインでは左のように書かれているから、すくなくとも「シモオサ」か「シモウサ」のどちらかであり、「シモフサ」ではないことがわかる。

【関連資料】

- ⇒ 和声学の神様と言われた下總皖一の業績
- ⇒ 男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念委嘱新作

Back

音楽・合唱コーナーTOPへ

Home

Topページへ戻る